



CANOA だより

50

2012年6月発行

文・写真_鈴木真由美 編集_橋口博幸 発行_ブラジル事務局
Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

光の子どもたちの会

団体概要:

私たちは、ブラジル（東北部の小さな漁村）で教育を通じた活動を行っている団体です。私たちは活動を通して、特に子どもたちに対し、自らの将来を選択していくための「生きる力」を持てるように支援しています。国内の支援者の方々には、イベントへの参加や現地の手工芸品の購入を通して、現地の文化や空気、子どもたちの輝く笑顔を身近に感じていただけます。これからも私たちは、子どもたちの輝きを支え、人々に笑顔を届ける活動をしていきます。

●理念

子どもが自ら自分の将来を選択していくための「生きる力」を持てるように支援する

●目的

現地にて保育園及び学童教室を通じて、教育を基盤とした活動を実施。 / 地域の伝統文化を生かした情操教育の実施。 / 海外ボランティアを受け入れることで、多文化に触れる機会を設ける。

●方針

活動全般において、住民の主体的参加を促し、住民自らが主体的に活動を継続していくことを目指す。 / 地域の産業・文化保全に対する教育的・経済的支援によって、地域住民の経済的自立と生活向上を目指していく。 / 日本や海外からのボランティアを受け入れることで国際協力の観点から、文化交流や多文化共生といったボランティア・地域住民が互いに学び合い、自己研鑽できる機会をつくる。

●スローガン

子どもが子どもらしく
子ども時代を幸せに過ごすためには？

記念すべき「CANOAだより五〇号」です。始めてCANOAだよりを発行してから、十二年。早いものです。残念ながら、今回は特集など何もないのですが、年末を楽しみにしててください!!

日本では大変お世話になりました。今年八年ぶりに日本の冬を体験しました。娘たちにとっては初めての冬です。『いったいどんな反応を見せるのだろうか?』と楽しみにしていた私。長女の美莉亜は雪の降った朝、「雪だあく!!」と、パジャマのまま外に走っていきそうな勢いでした。次女の真琳は窓から外をのぞいて「雪だね。」と言ったものの、「寒い。」とすぐに窓を閉め、家に入ってしまった。初めての雪の体験も、それぞれですね。

今回は私たちの団体が設立されて六年目に入ったことを考慮し、もう一度、なぜ、どうして私たちは団体を設立し、活動を行うようになったのか?ということ共有する機会を設けました。まずは総会の場で話させていただき、その後、スタッフと何度も話し合いを重ねました。そんな折、JICA横浜で「広報セミナー」が開催されることになり、参加することにしました。「広報とは、自分の団体をよく知っていなければできないこと。だからこそ、今一度設立の時の「想い」を思い出し、自分たちのミッション、活動内容を文章化していきましょう。」

まさしく私たちが行っていたことでした。そして出上がったものを皆様とも共有したいと思えます。

イベント告知

光の子どもたちの会 初夏のシュハスコ!!

雨天のため延期となった、4月22日に予定されていたシュハスコを、改めて開催します。今回は、小雨であれば、橋の下で決行したいと思います。今度こそみなさんと楽しくシュハスコできますように！たくさんの方々のご参加をお待ちしています♪

6月23日(土) 11:00～15:00

多摩川緑地バーベキュー広場 神奈川県川崎市高津区瀬田先

(東急田園都市線・大井町線 二子新地駅より多摩川沿いに徒歩5分)

大人 1,500円 (入場料・炭代・食材代等を、当日参加したメンバーで割り勘)

子どもは一律 500円

*二子橋の真下です。

*駐車場・駐輪場もありますが、当日は混雑が予想されますので、お車・自転車ですらっしゃる場合はお気をつけ下さい。

*何か一品、食べ物または飲み物をおもちください。他にも焼きたいもの etc. あればどうぞ！

*雨天時は、神奈川県民センターのフリースペースにて、カノアの貝殻を使ったアクセサリ作りをする予定です。

神奈川県民センター 9F フリースペース

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

(東急東横線、JR 横濱線ほか 横濱駅より徒歩5分)

*雨天時プログラムとする場合は、前日夕方までにその旨を参加される方たちにご連絡します。

4/22 カノアの貝殻でアクセサリ作り

イベント参加者よりアンケート

1. 曜日、場所、時間帯

とてもよかった。ただ、盛り上がりすぎて、少し周りに迷惑をかけたかも。

2. 内容

楽しかった

3. 参加費

最後にアクセサリを定価で売るくらいなら、参加費をとって、一つは本人のお土産、残りは販売用にするのも良かったのではないか。

4. その他

共有した時間のわりに一体感を感じる時間が少なかった。

5. 今後やってほしいイベント

ぶちボル語講座 / ぶちサンバ講座 / 朝までサンバカーニバル / 貝殻穴あけ対決

こうしたアンケートの結果を踏まえ、今後のイベント企画や実施に生かしていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



paulo

地球環境世界児童画

コンテストに参加しました

JICA日系社会青年ボランティア 真野由紀

「私の住みたい地球」というテーマで絵を描き、コンテストに参加しました。

子どもたちはそれぞれ自由に、自然や動物をたくさん描き、素敵な絵が完成しました。



alisson

絵に添えたメッセージ

◎パウロ・ガブリエル・

アンジェロ・ダ・シウバ (11歳)

「争いのない、平和で安心できる

世界であってほしい。」

◎アリソン・ダ・シウバ・サントス (9歳)

「パラシュートは人を乗せて

あちこち空を飛ぶ風船です。

世界を一望できるので、

僕はすぐに好きになりました。」

カノア一年目を終えて

JICA日系社会青年ボランティア（青少年活動） 真野由紀

私がここカノア・ケブラーダのエステレーヴァン村に来てから一年。任期二年間の半分が過ぎました。ここに来る前に、日本で何人かの元ボランティアや関係者にお会いし、事前にこの生活がイメージできていたため、大きな戸惑いなく活動をスタートすることができました。

最近では、カノアの生活を説明する時にこう言います。「カノア・ケブラーダはジャマイカみたいなところ。みんなレゲエが好きでボブ・マリーを崇拜していて、ヒッピーが集まる自由と解放の町。」でもこれが多文化国家ブラジルの一部なのだとは強く感じています。

現在、私は午前のフラビア二のクラスで授業補佐をしています。今期の生徒は六人、七歳〜九歳の子どもたちです。私は週に二コマ、図工と英語の授業を担当しています。授業後、毎日のように、フラビア二と生徒について話をしますが、とにかく大変です。たかが六人、されど六人。人の話を聞く集中力、文字の読み書き、言葉遣い、ルールを守ること、これらのことが家庭や地域、学校で教えられていない現状を目の当たりにしています。毎日四時間だけ接する子どもたちに私が何を伝えられるのか。それは、学校に来る楽しみを伝えること。少しでも楽しい授業をして、学ぶ楽しさを知ってもらい、学校は楽しいところだと伝えたい。それが、現在の活動の目標です。教育のプロでもなく、教師経験があるわけでもない私ができることは、自分が子どもの時に楽しかった遊びや授業を、私が子どもたちにしてあげることだと思っています。

マルシアーノのクラスでは、週に一度、日本語の授業をしています。ここでは言葉教えることよりも、ブラジルにない遊びや歌を教えることを重視しています。教室に笑いが溢れ、ある生徒から「Hoje foi muito legal!（今日はすごく楽しかった!）」と言われるのを目標にしています。子どもたちは本当に正直。だから、毎回この授業は私にとって大きな挑戦なのです。

このクラスでは、東日本大震災から一年が経った三月に、私の震災体験と岩手県の被災地でのボランティア活動の話をしました。「現在も避難を強いられる人の数は、カノアの人口の八十倍なんだよ」と説明すると、子どもたちはワオ〜と反応を返してくれました。私が一番伝えなかったことは、「津波被害に遭ったところは、カノアと同じ漁業が盛んな景色の美しい町だった」ということ。岩手で撮った写真を通し、それが伝えられたかな、と思います。それでも、子どもたちは津波や地震のことをよく知っていたため、常に自分と関わりのある日本のニュースはよく見ているのだと感心しました。この日、日本の皆さんへ向けて歌った「翼をください」は、ビデオ撮影すると言っていたので、練習からみんな緊張しっぱなしでした。合唱の指揮はいつも聴覚障害のあるヒカルドが行います。ヒカルドがいるとクラスがとて和むので、みんな彼が大好きです。撮影した映像をまだご覧になっていない方は、Youtubeでぜひご覧下さい。歌い終わった後に喜んで飛び跳ねる姿がとてかわいいです。ご覧になった後は、感想を書き込んで頂けると嬉しいです!

この学校では、季節に合わせた行事が盛りだくさんで、プレゼントや料理、発表プログラム、全て詳細までこだわり、先生たちは準備にかなりの時間と労力をかけます。大学に通いながら働いている先生たちは、常に時間と激しく戦っていて、そんな忙しい姿はこの村ではちょっと浮いた存在かもしれません。しかし、母の日のお祭りを迎えて、子どもたちの美しい歌、美味しい料理、手作りモービルのプレゼントにお母さんたちは大満足。それを見た先生たちは苦勞の甲斐があったと心から満足していました。Crianças de LUZの先生たちの仕事は本当に大変。しかしその分、とてもやりがいのある仕事だと思いました。

村のコミュニティーの中で生活するという経験。これは私にとって驚きと気づきの連続でした。日本の田

舎でもまだこのような村社会があると思います。ここは昔の日本の姿でもあり感じています。村の中にはどこにでも子どもがいて、兄弟や祖父母、近所の人々がみんな子どもを面倒を見ます。考えてみると、いつも近くに子どもがいるという状況は人間にとってとても自然なことなのに、私にはその経験が無く、今多くの日本人にも経験の無いことだと思っています。核家族が当たり前になった日本人の生活は、なんだか不自然だなあとさえ感じます。活動の残り一年、村社会の良いところも悪いところも全部受け入れて、小さな村だからこそできる活動を模索していきたいと思っています。日本の皆さん、今後とも宜しくお願い致します。



↓ Tsubasa o kudasai in Canoa Quebrada
<http://youtu.be/H-rJg10CPYw>



味の素支援によるプロジェクト

味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『地域特有の食材及び料理の再評価による、地域住民の栄養改善プログラム』として、二〇二二年四月一日より事業を開始しました。

この事業は、二〇〇九年四月〜二〇二一年三月まで実施された栄養改善プロジェクトの事業実施中に参加者より聞かれた、「対象地域の海で取れる魚や森の木の実（果物）というのがどれくらい栄養があり、昔から作られている料理にはどんな栄養が含まれているのか。」「こうした料理にどんな食材を加えることでより栄養価の高い食事となるのか。」という疑問や質問を受けて実施されることとなりました。主に、地域の家や森で入手できる食材の栄養価を確認し、それらを生かした料理をすることで、地域にある食材の保護と大きな課題である生活習慣病の改善目的としています。

協力団体であるフォルタレーザ大学栄養学科とは既に何度も話し合いを行っており、アラカチ市保健局所属の栄養士をはじめとする専門家も大きな期待を寄せています。

かながわ国際交流財団の支援によるプロジェクト

前号でもお伝えしましたが、現在、『ブラジル東北部の貧しい漁村における、青少年を含めた地域住民への地域子育て事業』として事業を実施しています。

中でも研修生として「マリエッタ」が加わったことにより、私たち自身も教えながら、同時にたくさん事を学んでいる毎日です。特に、保育園の教師から時間外勉強会の開催の申し出があり、週一回の勉強会を行っています。私たちの保育の原点を再確認することは、長く保育に関わってきたいる教師にも良い学びの場となっているようです。継続的な専門家との協力体制も着々と築かれており、家族を交えた子育て広場の重要性を実感しています。九月三十日までのプロジェクトではありますが、これからの発展に大きく期待しています。

保育園の研修生

マリエッタ・バチスタ・ダ・シウバ

こんにちは、マリエッタ・バチスタ・ダ・シウバと申します。私が光の子どもたちの会の学校の学校で働き始めて数ヶ月が経ちます。当初は、この学校の教育方法は変わっていると思いましたが。なぜなら、私の幼かった時のように、子どもたちはノートや鉛筆を持って勉強するものだと思っていたからです。しかし今では先生達が行っている、子ども一人ひとりの発達段階（手先の動き、歯の生え換わり、態度、自由画）に応じた対応の仕方や観察方法を学び始めています。

私はこの学校の仕事がとても好きで、もつと子どもを知ることができるとは良い事だと思います。道を歩いているとチーア！と声を掛けられるので、学校でも新しいアイデアなどを他の先生と協力して実現できるようにになりたいと思います。

私はエステーヴァン村の青少年グループ（Grupo do Jovem）にも関わっていました。その活動を通し、たくさんさんの素晴らしい日本人ボランティアと知り合いました。今でも時々、その時の楽しかった思い出をよくみんなで話しています。

日本の皆さんへ、*milhões de beijos e abraços!!*



子育て日記より

冒頭でもお伝えしましたが、娘達は初めての冬を体験しました。真琳（次女・四歳）が通っていた幼稚園の主任の先生が、「真琳ちゃん、外遊びのときにみんなと走りまわればあったかくなるのに、『寒い、寒い』っていつて、職員室の前の段に座っているのよ。」と言っていました。外に出るのも嫌がっていたようで、大好きな先生の手を離さなかったそうです。それが…寒さになれた途端『暑いからセーター脱ぐ!!』と言い出すほど、元気に園庭を走り回るようになりました。そして：ブラジル・カノアに戻ってくる、夏バテになってしまったのか、水分ばかり取って、食事もせず、食べるのは果物くらい。そして、寝る、寝る…私も夏バテ気味だったので、三日ほどはゆっくりと、一緒に横になっていました。次第に体が慣れてきたのか、保育園に通うようになり、いつも通り食欲旺盛になりましたが、初めての冬。寒さの体験。四季のある生活のある日本を知ってもらいたい。そういう思いが私の中のどこかにあったのでしょうか。日本とブラジル二つの国の中で生きる娘は大変かもしれない。でも、二つの国と二つの文化を持っている人になってほしい。それは親である私のエゴなのかもしれません。それでも、私にできること、伝えられる事を娘達には目一杯してあげたいと思っています。



JICA基金の 支援によるプロジェクト

前号でもお伝えしましたが、『ブラジル・公立小学校と連携した学童教室実施による、学校教育改善事業』として事業を実施しています。

公立小学校との連携は、色々な意味で難しい事もあり、まだ多くの課題を抱えている状態ではありますが、情報交換や子どもの家庭環境を踏まえた活動の実施を重視していることには変わりありません。定期的に話し合っていくことで、子ども（生徒）にとってより良い教育環境づくりを目指していきたいと思っています。

ベビークルトの会との活動協力

前号でお伝えしたベビークルトの会との活動協力ですが、既に私がカノアで保管しているキルトを私も二人の娘を出産したアラカチ市内にある病院にお渡ししました。カノア・ケブラーダ地区だけでなく、市内に住む十代での妊娠やハイリスクの妊娠を経て出産されたお母さん達を中心に引き続き寄贈させていただきたいと思っています。

今後とも、ベビークルトかわさき、ベビークルト野の会、ベビークルトなのはな、エイトポイントスターの四団体の皆様が心を込めて作成されたキルトを一人でも多くの母親、子どもに届けていきたいと思っています。そして、このキルトから勇氣や力をもらい、元気に育っていかれることを心より願っております。

*ベビークルトの会にご興味のある方は日本事務局までご連絡いただけますよう、お願い致します。



ありがとうございます!!!

平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 5 月 9 日現在までに
会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました
皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場
をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありが
とうございました。これからも一人でも多くの方に会員
になって頂き、カノアの活動を共に支えていただ
けると嬉しいです。目標会員 100 名!!

*会費及び寄付を頂きました皆様

小川千鶴子 さま / 大谷タカコ さま / 大庭富美香 さま /
金田りせ子 さま / 川田真弓 さま / 川原翼 さま /
神田昌実 さま / 桑山寛子 さま / 坂井春菜 さま /
下向井稔史 さま / 高橋美智 さま / 谷村祥子 さま /
長谷川宏 さま / 東奈津美 さま / 福井俊紀 さま /
福澤郁文 さま / 藤本くみ さま / 堀池眞輔 さま /
堀池ミツ子 さま / 松丸綾乃 さま / 村上誠 さま /
山口晶代 さま / 吉田可南子 さま / 義村翼 さま /

*物資支援を頂きました皆様 (以下順不同)

山口晶代 さま

「学資支援」のお願い

ブラジルでは「子どもと直接かかわる職業の人はすべて、
大学の教育学部に通学もしくは卒業していること」とい
うことで、私たちの現地スタッフの内 2 名 (フラビアーニ
とパトリッシア) は現在大学に通学しています。私立の
ため一人当たり: 授業料 (月謝) + 交通費 + 教材費 = 約
18000 円 (R\$300.00) が掛かることとなり、その半分を
支援していこうというプロジェクトです。

現在、毎月約 18000 円 (二人分) を学資支援しています。
支援方法は、会員の支払い方法と同じです。但し、コメ
ント欄に『学資支援』と書いていただけますよう、お願
いいたします。

交流誌 めたもるふおーぜ

「光の子どもたちの会」を設立する直前から執筆させていただいている交流誌、
「めたもるふおーぜ」。この交流誌は、人智学を学んでいる方々の交流の場として
長年発行されてきました。私は他の原稿執筆者とは大きく異なり、人智学やシュ
タイナー教育といったものを他の人に伝えるようなことはできません。ただ、私
がカノアで行っている活動から得たこと、感じたことを皆さんに知っていただくこ
とで、何か学びとなればと思って書かせていただいています。正直に言うと、私
自身の学びの場であるのですが。毎月原稿を書いていると、その 1 ヶ月の出来
事が頭をめぐり、一番印象に残っていること、伝えたいと思っていることが「こ
れだ!」と頭にひらめいてきます。私はそれをただ文字にしているだけなのです。
しかしこの作業が、自分自身の生き方、活動を振り返り、前進する大きな役割と
なっていることについて最近気づかされました。この交流誌が休刊になるという話
を聞き、本当に驚きました。しかし 2011 年 11 月、198 号では、続けてほしい
というメンバーが集まり、来年 4 月より新編集部に生まれ変わって継続されると
いう嬉しいニュースが掲載されていました。私のカノアでの活動、思いが凝縮さ
れている「めたもるふおーぜ」。引き続き執筆していくかどうかはまだ分からない
のですが、ご興味のある方はぜひ購読してみてください。

〒 520-2271 滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

tel / fax : 077-546-4147

e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/metamoru4se/

会費及び寄付の振り込み方法の改善について

会員の皆様から会費及び寄付の振り込み方法について、貴重なご意見をいた
だきました。当団体でも、なるべく皆様にご負担をおかけしない方法を調べ、実践
していきたいと思っております。まだまだ至らない点もあるとは思いますが、今
後とも皆様からのご意見を生かしながら運営していきたいと考えておりますので、
ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

●自動引き落としによる振り込み方法

自動引き落とし希望の口座のある金融機関に行き、自動引き落としの手続きをす
る。(この際、ご希望の引き落とし日、金額を指定していただけます) ご希望の
引き落とし日よりご指定の金額が『光の子どもたちの会』に振り込まれます。

*尚、ゆうちょ銀行の場合は下記の<郵便振替>と同じ口座番号ですが、他金
融機関からの振り込みの場合には、<ゆうちょ銀行振込>と同じ口座番号となり
ますので、ご確認ください。

■郵便振替

口座番号: 00280-1-41787

加入者名: 光の子どもたち-カノアの活動を支える会

■ゆうちょ銀行振込

名義: 光の子どもたちの会 店名: ○二八 (読みゼロニハチ)

店番: 928 普通預金 口座番号: 5552594

ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!! (以下 2011 年 9 月より現在まで)

2011/7/26 ~ 現在

真野由紀

JICA 日系青年ボランティア、保育園助手、日本文化教室実施他

2012/4/11 ~ 17

マイケル

イギリス人、シュタイナー学校体育専攻教師、レクリエーション活動